

バスト  
BOOK



# いっぱい揉まれるおっぱい作戦！！ その壱

～彼に“可愛い～、気持ちいい～”って言われてみたい！～

## ➡ 【いっぱい揉まれるおっぱい作戦!! その巻】

~彼に「可愛い~、気持ちいい~」って言われてみたい!! ~

まあ女子ってのは集まるとよくしゃべるものよね。ワタクシも含め。この間は、おっぱい談議に花が咲きましたよ。三十路も半ばのオンナが3人、真ッ昼間からワイン飲みつつおっぱいの話ですよ。破廉恥かしら。いやいや、そんなことはないのよ。案外的を得た、ほほうと納得しちゃう話だって出てくるのよ、たまには。

3人のうちひとり、スリムボディが自慢。背も高めですらった印象。でも、彼女の悩みはムネまでスリム気味ってこと。30ウン年間、ずっと自分はいわゆるムネのない人、として生きてきたらしいのよね。「ぶっちゃけ...」と、なんだか言いにくそうにしている彼女に無理やり聞き出したところ、過去につき合った男性はみんなムネの大きさなんか気にしないよ、と言ってくれたらしいんだけど、実はエッチのとき、全員が全員、ムネを両手でぐいと寄せ集めて、なんとか大きく見えるようにすごく工夫してたって言うの。上になっても、下になっても、ナナメになってもおっぱいを無理やり集めようと努力をするんだって。その工夫も健気なものだねえ。やっぱり大きいほうがいいんじゃない! って毎回思ってたって言うのよ。ふうん。やっぱりそうなのかしらね。確かにある雑誌の、男性は女性のどこに惹かれるかっていうアンケートでは、ムネと答えた人が39%。むうう、なかなか高い数値。

もう一人の友人は、おっぱいでっかめで彼はそれに大満足(だったそうです、過去の話?)。大きい人には大きい人なりの悩みがあるみたい。もちろん、タレよ! 年齢とともに重力に逆らえずにタレ流れてゆくおっぱい。大きいからこそ重量もたっぷり、落ちるスピードも早いからね。かつてはツンと上を向いて、前に突出し、男性を惑わ

せていたムネも、形が崩れたらなんとかしてブラにはめ込んで型をキープするしかなくなっちゃう。ブラをしているときには大きいのに、はずしたらトロ~ッと流れ出ていっちゃう。彼女の彼が両手で集めようとしているのは、流れ落ちるおっぱいなんだって。せきとめてなんとかおっぱいに見えるように努力してるんだそう。前述の彼女の悩みとは正反対、だけどどっちも深刻な悩みよね。

そんなおっぱい悩み話をしながらどうしたらいいかしらねえ、と酒も進むなか、ふと気づくと...ムネの小っちゃい彼女はなんだかうれしそう。ニヤニヤさえている! どうしたのよ、何があったのよ! 「実はね...」ある日下着屋さんでサイズを測ってもらっていたら、「お客様はEカップですね!」といわれ、あまりの感激に何枚もお買い上げしてしまったのだそう。って、うまく騙されたんじゃないの? というワタクシたちのツッコミをさえぎるように彼女の口から出たEカップの理由ってのが...

「おっぱいはゲル状の流動体なの! だから集めれば集まるし、動くの! 動くものを小っちゃいカップにおさめたら、成長しないのよ! だから大きな水槽に入れてあげたの!!」

す、水槽? なんでも、サメは小さな水槽に入れると、その水槽に合ったサイズまでしか成長しないんだって。だから大きな水槽(カップ)に入れてあげれば、大きく解放されて成長するんだとか。ま、サメがムネと一緒にとは思われないけど、とにかく彼女のムネ、見た目はすごく大きくなってる。触らせてもらったら、あれ? 本当にふわふわ大きい??? 案外そのムネ=ゲル論、馬鹿にしたものじゃないかも。流れ出るおっぱいも、ゲル状だからだもんね。大き

めのカップに入れて、集められる肉はすべてそのカップに入れてあげて、自由に成長させる、か。でも、本当にそれだけで成長したりするものかしら。

すると、「それだけじゃ駄目なのよ！」と語調も強い彼女。下着屋さんの店員さんが、小さいブラに無理やり押し込めていると、変な汗もかくし、肌をしめつけてあともつくし、ムネの肌自体にもよくないって教えてくれたんだって。「だから、大きいブラを買ったのと同時に、おっぱいケアのジェルも買って、一生懸命塗りこんでるんだ！」そういえば、ムネの肌質って、いつも隠している場所だからあまり日焼けもしないし、手触りとかって気にしてなかったね、と3人。ムネの肌もコンディションによってガサツいたり、触り心地が悪くなったりすることもあるんだって。形がツツと整って流れ出るのを防止しつつ、やわらかい肌を実現できないものかしら？と、じっと考えるの図。こういう悩みってさ、若いときよりもずっと深刻。

「で、あなたの悩みは何？ おっぱい関連で！」とフられたワタクシ。ううう、そうねえ。「おっぱいの両側の、脇の下に近いところ、いつも同じところから毛が1本ずつスラ〜っと生えてくる。あ、あと、乳首が黒い。」

「……。」

「……。」

「…なんとか、しなさいよ！」

人の話を聞いてふうん、そうか、ははあん、などと言ってる場合じゃなかった！　グイグイとワインを飲みつつ、それぞれが拳を握って「育て、育て、大きく育て！」あたし、やってやる。取り戻すわよツツツンプルブルのおっぱい！「まず、毛を抜いて…そんでもって乳首をピンクに

するジェルでも塗って…」と決意してる三十路3人の図も、午後のスペイン料理屋さんではさそがし変だったろうけどね。 